

「炭鉱（やま）の遺産・保存整備事業について」

On the preservation of the coal mining heritage in Akabira

吉田 勲

1. 沿革

安政年間、松浦武四郎によって発見された空知川岸の露頭はベンジャミン・スミスライマン、榎本武揚等の調査を経て、坂（ばん）市太郎氏により鉱区出願されました。大正13年に住友の経営に移り、1斜坑区域（旧上歌志内砒）を稼行してきましたが、昭和13年赤平地域の開発に着手して、14年に1坑、16年に2坑、19年に3坑をそれぞれ開坑しました。更に28年上歌志内砒（1斜坑）を合併して操業能力を集約合理化し、体質を改善して生産性の向上を図ることで、150万トンの出炭体制を実現しました。

2. 概況

赤平砒は赤平市及び歌志内市内に誇る1,800ヘクタールの鉱区に埋蔵量4億トンを保有しており、合計23層の炭層からなっています。山丈累計49.60m、炭丈累計37.20m、最大層厚9.5m、平均2.15mです。品質は極めて優秀で原料炭を主として産出してきました。赤平砒の炭層は一部を除いてほとんどが急傾斜であるため、採炭の機械化に大きな制約を受けてきました。しかしながら、充填ブリのクラッシャー方式の採用、中傾斜用採炭機械（自走棒採炭）の導入、採炭能率の向上等によって、切羽（きりは）出炭の増大を図り、逐次能力を向上させてきました。

3. 立坑開さくの意義

赤平砒は従来斜坑方式により-350水平上部を主な採掘区域として年産100万トンの出炭を行ってきました。しかしながら、熾烈なエネルギー革命と、切羽の深部移行に対処するためには、立坑方式により運搬能力の飛躍的増強を図り、合理化を更に進展する必要があります。



そこで、鉱区の略々中央に直径6.6m、延長650mの立坑を開さくし、-350水平並びに-550水平を骨幹坑道とし、各レフィアーは盲斜坑により展開し、更に一坑連卸斜坑をベルトによる揚炭体制で、従来の年産100万トン、能率35トンを200万トン、最低60トンへの飛躍を図りました。この立坑は、昭和34年9月着工以来、20億円余の起業費を投入、社内経営、技術陣の総力を傾注し、関係者の一致協力により僅か3年5ヶ月で完成しました。

YOSHIDA Isao

赤平市・炭鉱の歴史を保存・継承する市民会議・元会長

4. 炭鉱（やま）の遺産保存整備事業

さて、今日の本題に入りますが、閉山をしたときに実は赤平炭鉱の色々な関連資料、ソフトの部分もハードの部分も色々なものがありました。ソフトの部分は出せない物もありますが、出せる物は赤平市に譲渡しようと会社の方針が決まっていたので、それらは市の方へ譲渡しました。ハードの部分、坑内で使用していた機材、器具も色々なものがあって、これらも投げれば鉄くずなのですが、それはもったいないという話もありましたし、私もどうにかしないと、と思っていましたので、この平成13年緊急地域雇用特別対策推進事業ということで、やりました。

事業内容につきましては、炭鉱（やま）の遺産を保存継承するために、遺産の整備が必要だと、まあこれは役所向けの言葉でして（笑）、下にあります大型機械、この年はここに私たちは注目しました。この大型機械は坑内から上げて地上に置いてあったわけですが、これをバラバラのまま置いておきますと腐りますし、将来はどうするのだという問題もありました。これを組み立てるときに人が必要で、しかもそれは素人には出来ないことです。それで、これを炭鉱の機械・電気に従事した人が何人かおりましたので、この人たちも人間ですから毎年、歳をとっていきますからお願いして、まずこういうものを組み立てようということを踏まえ人を確保したのです。事業内容ですが今お話ししたとおり、組み立て事業を行ったということです。

5. 雇用創出効果

これは、雇用創出効果なのですが、これも現場監督として一人責任者がおまして一人51日間、機械やペンキなど諸々の作業がありますので、この人数でこれだけの維持費がかかったということです。事業費としては3,843,000円ということで、この事業をやりました。

6. 機械類の保存（平成13年度）

スライドでは自走榨工場正面と写真（写真1）が出ていますが、実は、後にも出てきますが、これは赤平炭鉱で使用していた自走榨という採炭の機械があるのですが、それが稼働しているときに坑内でつかっているものと、もう1セットが地上にあるのですね。それを出したり入れたりするわけですが、その整備をする工場がたまたま、これは壊す運命にあったのですが、正直に言うと壊すお金が無かったものですから、残ったということが幸いしたのだと思います。それでここに陳列しようということで、この場所に決めました。



写真1：自走榨工場正面



写真2：自走榨工場内へ搬入作業

これは、経緯はまだあるのですが、市に譲渡したものを運び入れている様子です（写真2）。これは坑内で使った大型の運搬機の道具を入れているところですね。次の写真は、搬



写真3：組み立て作業（ロードホールダンプ）

入したものを組み立て始めたところです（写真3）。

これが大体、大型重機の所謂、運搬機械の搬入をした年です。

7. 炭鉱事務所資料の保存（平成14年度）

平成14年度には、赤平炭鉱の事務所の資料保存作業がありました。

閉山当時、それぞれの課が書類を段ボールに入れて野積みをしておりました。私は閉山後清算事務所の整理をやっておりましたので、これは会社の資料に勝手に手は付けられないということがありましたが、実はこの中に非常に重要な文献や書類があるものですから、本社の常務と相談いたしまして、プライバシーに関わるものは出せませんが、差し支えないものは出して市のほうに譲渡しましょうということになりました。〔機械と〕同じようではありますがこの年度には、文献と図面類を整理したということになります。

このように煩雑に段ボールの中に入れて（写真4）、まあ、これは整理が始まったところですから分けをしています。例えば坑内の採炭ですとか掘進ですとか、分けながら、先程少し触れましたが坑内の保安日誌ですとか、そのようなものが残っておりましたので、それらの分類をしたのです。

これはある程度作業が進み、整理をした段



写真4：作業前の状態（事務所資料）



写真5：進展した整理作業

階です（写真5）。

次の写真(写真6)は、何かテーブルがあってビニールがかけてあるのですが、実はこれが一番重要なものです。これが無いと炭鉱は操業出来ません。これは私の仕事の中で、本来の1000分の1の図面をワットマンという、今は書かないとは思いますが厚い紙に烏口や絵の具、墨を使って一本一本抗路を書いていったのですが、その図面を整理したところ



写真6：テーブルと図面

なのです。赤平炭鉱の坑内の保有坑道が一番長いときは、160キロメートルありました。それが全てこの図面の中に書いてあるのです。これが基本でこれが無いと炭鉱は操業出来なかったのです。この図面には外に出せない人名など、所謂プライバシーに触れるものが書かれているので、旧所長室に保管をしました。

8. 機械類の整備・組み立て（平成15年度）

平成15年は、国際炭山歴史会議を赤平で開催することになりました。この年には色々ありましたが9月のこの会議に向けて、平成13年度に自走枠工場に入れた物を整備して、陳列をしました。



写真7：ミニユンボ

これはミニユンボです(写真7)。言ってみれば普通の土木現場で使っているユンボですが、これを改造いたしましてミニユンボとして、エアーで動きます。坑内の坑道、狭歪（きょうわい：坑道が狭くなること）と言う言葉を使いますが、10の断面がありますとこれが8、6と段々小さくなっていくのですね。それを炭鉱用語でいうと、こういう床のことを踏前（ふまえ）といいます。その踏前が盛り上がって来ますので、それをミニユンボで掃除をするというか、掃いて行きますと非常に坑道が広がるのです。例えば高さ1メートル50センチしかなかったものが2メートルまで回復する。非常に能率があが



写真8：サイドダンプ

るので。

これはサイドダンプと言いましてサイドにバケツがついております(写真8)。普通はバケツというのはこのようにするのですが、こうズリを持ち上げましたら横に、ですからサイドと。そして炭車がありますのでそこに積み込むと。

これは主に石炭ではなくて、所謂岩石坑道を掘進したときに岩石が出ますのでそれに使用していたのです。ロードヘッダー、これはマシンなのですが、昔はケーカーセブンですとか色々な名前があったのですが、九州の三井三池製作所で作ったものです(写真9)。先



写真9：ロードヘッダー（前面）

端を廻しながら掘進していくのです。掘進で落ちてきた石炭はギャザリングという受け皿で受けて、それをこのように掻いて行くのです。言ってみれば蟹の爪のようなものです。

次はギャザリングした石炭を運搬するためにシャトルカーという機械を使います(写真



写真 10：シャトルカー（前面）

10). シャトルバスというのがありますが、あれを連想してもらえると良いでしょう。かなり大きなものです。これに積んで500メートルくらい後ろに走ります。これの特徴は、従来の坑内の坑道を掘進するためレールを曳かないと電車が入ったり、トロッコが入ったり出来ないのですが、この機械を使うとそのようなものは一切必要ありません。会社側から言うとコストがものすごく安くなるのです。電気は使用しますが大量の石炭を運ぶ機械なのです。

これはロードホールダンプです(写真11)。坑内の岩石坑道を掘った時に昔はスコップで掘って、出た岩石を片付けるのにサイドダンプも使っていたのですが、それ以上に能率が上がる。まさに今の時期、北海道でも除雪するときにはタイヤショベルが圧雪するのに走っていますよね、そういう機械です。これも電気で走ります。大きなバケットで持ち上げて、先程のシャトルカーに積み込んでいく



写真 11：ロードホールダンプ（前面）



写真 12：自走枠（採炭機械）

のです。

これは先程も少しお話ししましたが、自走枠、所謂採炭機械です(写真12)。見たことのある方はいらっしゃいますか。これはボックスなのです。採炭する石炭の中に鉄の固まりがすっぽりと入っていく形になります。これは九州の三井三池で作った自走枠なのですが、幅は1メートル25センチの機械が何本も並んでいるわけです。赤平の場合は地質的には褶曲と断層の多いヤマですから、ロングとして100メートルだと自走枠は（1機の幅は1.25m）80機のセット、80メートルでは60機の自走枠をセットし、ドラムカッターを稼働させ採炭を行うわけです。この機械を使うことによって、一つは能率がものすごく上がるということと、怪我が少ない、上から落ちる物をちゃんとブロックしますから、そういう意味では非常に良い機械です。これがたまたま、ここに載っているのは、実は夕張新鉱が閉山したときに、住友がスクラップで安価で買ってきました。それまで、赤平炭鉱ではこのような近代的な採炭機械は持っていませんでした。

本当は、このようなことを言うと怒られるのかもしれませんが、新鉱が閉山になったものですから、では赤平としてその機械を導入して採炭をしようと、方針が決まりました。最初は40機だったと思ったのですが、それを買ってきて採炭を始めたのです。2年間ほど試験採炭をしましたが、ある程度技術をマス

ターしたので、最期には殆どこの機械の採炭現場で採掘をしておりました。この機械のおかげで赤平炭鉱は、10年は命が延びたと思います。人が辞めてもこの機械のおかげで、ある程度の出炭量の確保は出来たということです。

9. 文献・資料の展示（平成16年度）

平成16年は、平成15年で鉱山会議が終わりましたが、今度はソフトの部分のものが未整理でした。赤平炭鉱の2階事務所に置いたままのそれら資料を一般公開するにはどこが良いかということで、市と色々打ち合わせをしましたが、丁度、赤平市では学校の統廃合がありました。それに伴って余った校舎が出てきました。その中のひとつ、私も卒業いたしました住友赤平小学校にいずみ幼稚園を併設してあったのですが、その幼稚園が別の学校に移転し、そこが空きましたので、そこに色々な文献や坑内の諸々の小さい機械も展示しようということで、平成16年度には、譲り受けたものを住友赤平の小学校舎内に展示をしたのです。これも二ヶ月ほどかかったのですが、平成14年度にある程度の整理をしていましたので、あとは運搬して学校内の展示場所にどのようにディスプレイするのかということだけでしたので、これは二ヶ月ほどで終了しました。これには440万円程かかっています。

平成16年度は学校をやったのと住友地区

に、まだ会社以外の色々なものが残っていましたので、これも一緒にやりましょうということで、これは1ヶ月間ほどかかったのですが、それを集めて一緒の場所に展示をしたのです。

これが住友赤平小学校の現在の正面玄関です(写真13)。玄関の右側の方に白い車が写っていますがあそこが赤平市炭鉱歴史資料館の玄関になります(写真14)。



写真14：赤平市炭鉱歴史資料館

これは玄関に入るとすぐにあるのですが、住友小学校の子どもたちが作った立坑の模型です。これは当初、先生方が捨てると言っていたのですが、せっかく子どもたちが作った作品なのですから、是非残してくださいとお願いして、現在も玄関に展示してあります。これは先程も言いましたが、平成15年の国際鉱山会議の時に子どもたちが作った物なのです。お名前は定かではありませんが、確か英国人の女性で教育関係の方でしたが良く作ったと褒めて下さいました。左側にあるのは大人の



写真13：住友赤平小学校（現在）



写真15：立坑模型

人が木で作った豎坑の模型で、市内の松原さんという方が作って寄贈してくれたのです。



写真 16：資料室内部（救護隊関係）

これは資料館の内部ですね。資料室には番号を7番まで付けました。この写真は、写真と救護隊の酸素マスクやボンベを陳列している資料室です。この酸素ボンベというのは10キログラムほどありまして、坑内火災の時にこれを背負い、マスクが付いておりますので管で連結をして、ガスの中に入って行くのです。

次は炭鉱で使用していた運搬の道具です。ここには色々な物があります。例えばハンマー、レールを繋ぐ機械、レールのジंकロ（曲げる）機です。それから次は、保安関係の物の写真で検定器と坑内無線。北海道新聞に釧路のコールマインの坑内誘導無線をベトナムで改造して使用するという記事が出ていましたが、この無線の坑内無線です。



写真 17：採炭機械・採炭写真

これらは看板関係で、左側の方にはもっと

沢山あるのですが、写真に入り切りませんのでこの部分だけ撮影してきました。次の写真は石炭を掘るコールピックです（写真17）。下の方の持つ部分が白い道具は坑内で急傾斜採炭をするときに石炭の中に穴を開け、その中に火薬を詰めます。その穴を開ける時に使う（エア）オーガーです。それらを陳列してあります。

次は電気・測量・坑外写真です。正面に展示されているのは坑内で使う電気のケーブルです。これらは普通のケーブルは使えません。鉱業法で定められた防爆型のケーブルを展示しています。中が何スケーア（何本の線が入っている）かわかる電気関係の模型が有りましてので展示しました。下は測量に使うトランシッドなど、色々なものを展示しています。



写真 18：坑外・地質・坑内模型

次の写真は、昭和39年に赤平炭鉱で地上と坑内の地質と坑内の模型を作りました（写真18）。これは3年ほどかかって作りましたが、それを展示してあります。写っていませんがこの下に実測だと100キロメートルくらいになる坑道の模型が張り付いています。これらは一部が運んでいる途中で破損しまして、全部は入っていないのですが、スペースに併せて組み立てました。

これは資料室3です。写真の奥の方に写っていますのが、坑道を木の枠で作ったものでトメと言います。十八（とはち）と言って十尺、八尺の坑内の坑道を作っています。手前にあるのは、年代ごとに並べたキャップラン

プです。

どこの炭鉱でも同じだと思いますが、特に鉱山では神頼みといいますか、常に神社に対して供養して正月、そして炭鉱祭りというのは、昔は5月11日～13日だと決まっていたのですが、それぞれの会社の事情があり毎年日にちが変わるものですから、赤平炭鉱の場合は6月の札幌祭りにあわせたという経緯があります。今はそうでもありませんが、昔は札幌祭りというと結構赤平から札幌へ出て行き（仕事を）休むのですね。そうすると、会社としては困る訳ですね。それで6月の第2日曜日を休みにして、曜日を金、土、日と設定をしておりましたから日にちが変わる訳ですね。ある先輩は人間が勝手に神様の日にちを変えていると怒っていた人がおりました。このようにヤマの神社というのは非常に大事なものであります。

これは実際に担いでいたお御輿、ヤマの神社の御輿です。実は、私も小学校6年生の時に担ぎました。それをそのまま置いてあります。次の写真は、住友にはこのような住宅は無かったのですが、前段でお話ししました茂尻炭鉱などは歴史が古いので、こういう作りの、今の言葉で言うワンルームのような住宅があったのです(写真19)。ここにはストーブも卓袱台も水瓶もあって、寝るときにはここに一家で寝るとい住宅です。



写真 19：棟割長屋

これは大正時代に制作した、赤平村と歌志



写真 20：赤平村・歌志内村鳥瞰図

内村の鳥瞰図です(写真20)。写真ですと反射していてよく分からないのですが、これは素晴らしいものですので、是非赤平に来たときは見ていただきたいと思います。本当によくここまで描いたなど、私は思うのですがそのくらい大事な物でしたが、住友石炭から譲渡して貰って資料館に展示しております。次は立坑とガス発電所となっていますが、先程も言いましたが昭和38年に立坑が出来ました。翌年に立坑経由で坑内のガスを吸引しまして、発電をしました。これは日本で初めてでメタンガス、所謂CH₄のガスを使って発電したのは赤平が最初です。これが東芝の1,600キロワットでやって、東芝さんからいただいた模型です。動きます、100ボルトの電源が入っていますから、ボタンを押すと坑内からガスが出て行く順路が見られて、最期は送電になって電気が送られていく、その様子がわかります。これも是非赤平へ来られた際は見ていただきたいと思います。

右側に見えますのが文献類です(写真21)。全部整理してしまっていて現在でも使える資料が残っております。手前には、実は未整理の物があります。なかなか場所が無いのです。今後これらをどのようにするのは検討中ですが、今後の課題として残っています。

これが未整理の物です。途中、事業費の内容については申し上げませんでした。平成13年、14年、15年、16年は2回、やっておりますので合計で約2,900万円かかったということです。3年間でこれだけのお金をかけ



写真 21：文献と未整理機材等

て100%とはいきませんが、私の考えでは70%位は整理出来たのではないのかと感じております。

ここまで、赤平のハードとソフトの部分の資料等を展示している様子の説明をしましたが、今後はどこ場所にするのかということも含めて、これから技術者とも相談しなければならぬし、空知支庁さんとも相談して行政でやっていただけることは願いますし、やれないことは我々市民がやるということになっております。中々その先に進めない状況にあります。以上が平成13年から16年まで国の緊急雇用対策でやりました事業の内容の一部です。まだまだ他にもあるのですが、講演時間にあわせた資料を作成してお見せしました。

続きまして、現在私は本当にボランティアで、市の文化会館に保存されていた、赤平市が集めた写真、これは整理済のものも未整理のものも小さな箱に入ったままありました。それで、これらを何とかしたいと、私は平成15年頃から色々思っていたのですが、その頃から3年ほど日本を離れて、ベトナムへ行っていたものですから、その作業が遅れてしまいました。帰国してから整理をしようということで、この写真は赤平の有志のみなさん、役所のOBのみなさん、学校の校長先生などが集めたものですので、赤平80年史、平成15年に新しい市史が出来たものですから

それにあわせて色々な写真を集めていました。それを何とか活用できないものかと、一昨年の10月に、素人なのですがDVD化して、一部2,000円で販売させてもらいましたが今まで560枚ほど売れました。かけるといくらになるか、おわかりだと思います。

それでDVD「赤平今昔物語」を作りました、それが売れたということ。次に住友赤平、茂尻炭鉱、北炭赤間、豊富炭鉱、これら各炭鉱のDVD「思い出日記」というのを、現在製作中です。出来上がっているのは四つの炭鉱の内、やはり自分のいた赤平炭鉱が頭の中に入っていますので、それを作りました。それを今日、お持ち致しました。全部をお見せる時間はありませんが、二つの作品の前半と後半を見ていただけると、全体ですと40分ほどかかりますが、時間の範囲内で皆さんに観て頂きたいと思います。（以下、DVD視聴と解説）

10. 映像と解説*

10-1 赤平今昔物語

実はこれは、時間が無いものですから、ナレーションは前段と後段にしか入っていないのです。後は映像で観て貰うという形です。これが昔の赤平駅です。現在は「赤平市交流センターみらい」という立派な建物になっています。これは、赤平の北炭赤間炭鉱の777段というズリ山の頂上から撮影した、丁度赤平の中心地、「みらい」が写っていますが、あそこが駅です。これは茂尻炭鉱の昭和初期の選炭風景です。昔はこのように女性が選炭場で、石炭を選別していたのです。これが茂尻の炭鉱の棟割り長屋です。現在は春日といいますが、昔は千曲平といって丁度国道38号線にあるのです。これは茂尻炭鉱の事務所の前に所謂、配給所、それぞれのヤマで言い方は違いますが、そこに人が集まって買い物をするところですね。昔は運搬作業に馬が重要な仕事をしていました。これは茂尻駅での出征

兵士の見送りですね。

少しとばしましょう。これは昭和39年1月にガス発電1号機が完成、昭和40年4月に2号機が完成した住友赤平のガス発電所の全景です。そしてこれが赤平炭鉱の全景です。周りに広がっているのが住友の住宅ですね。あの先の左の方に今の住友小学校があります。ここに資料館があります。道路はそのままですが左右の建物は何もありません。これは坑内で作業を終えて、立坑ヤードで出坑の為待機している人たちです。これは急傾斜採炭で元々は木の枠でやっていたのですが、赤平では鉄柱カーテンといって鉄の支柱、この写真は赤平ではないのですが、同じ住友の鴻之舞金山です。これが先程話をしました自走枠採炭の実際に採炭をしている絵です。あれがドラムカッターと言って石炭を砕きながら進むのです。これは娯楽の殿堂と言われた親友会館、ここで映画や地方から色々な芸能人も来て、ここで娯楽を楽しんだのです。

これは子供みこしですが、山神祭で大山祇神社のお祓いを受けた後、各地区に戻り、町内を回り、山の安全を願いました。これは福利厚生の中のプールです。福利厚生施設を充実して、従業員の暮らしと健康を守る一環として、プールを建設、住友赤平小学校の児童に夏の楽しいひとときを提供していました。

これは茂尻が閉山になりましてそれぞれの誘致企業、前の写真は鞆のエースですね。これは材木の会社。これはエリエールという製紙会社、大王製紙の子会社です。これが赤平に一つある温泉です。残念なことに宿泊施設がないのです。個人では泊まれますがホテルのようにはないのです。

これは新聞でご存じの赤平市が3億円の赤字を出した胡蝶蘭です。今はホームマックに買っていただきました。これは旭川出身の方が人形を作る工房として作った徳川城です。

実は出資している社長さんが亡くなりました。これが7月の第3土曜、日曜に開催する「赤平火まつり」です。赤平のズリ山に火とかがいてある火文字、あれが炭鉱の名残です。

10-2 住友赤平思い出日記

これは全部ナレーションを入れました。これが3千分の1で描いた図です。座り込んでやったらしいです。前市長の親松さんが写っていますが、労働関係、市民の人たちが長いこと座り込みをしたのです。国に抗議をしている姿です。これは平成元年に石炭輸送が終わりましたので、最期の石炭列車です。これからはトラック輸送になっていきます。

この花束を貰っている人たちは、労働組合、職員組合、業者の責任者です。坑内に御神酒を捧げて、あがって来たところにご苦勞様と花束を貰っているところですね。

丁度制限時間になりました。赤平についてのとりとめのないお話をしましたが、あるものを大事に、今後どのように残していくのかというのが、我々に課せられた問題だと思っています。これからも市民の皆さんと一緒に、整理するものは整理して、起案が必要なことは起案してと、このような考えを持っておりますので、今日私はここに来てご説明をさせていただきました。少しでも赤平の宣伝になったのかなと思っています。これからも我々は努力をしてみたいと思いますので、どうか皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

*本節は赤平写真映像資料収集会が制作したDVD「赤平今昔物語」、DVD「思い出日記(住友赤平)」を上映しながら吉田氏が行った解説のため写真資料はありません。DVDの問い合わせ先については、<http://rabika.sakura.ne.jp/>参照。
(SORD事務局)